半世紀にわたる宜野座村との絆 交流の節目を祝う記念式典を挙行

沖縄県・宜野座村との半世紀の交流を祝う「姉妹町村提携50周年記念式典」が5月5日、内子自治センターで開かれました。

宜野座村とは昭和48年に旧五十崎町との間で姉妹町村縁組を締結。合併後の平成18年には姉妹町村提携盟約を結びました。互いの町村を訪問して伝統芸能を披露したり、子どもたち同士で交流したりする取り組みを続けています。

式典には両町村の役場や議会、自治会などから46人が参加。交流促進の宣言を交わし、泡盛を古酒として熟成させる「甕仕込み」の儀式で友好を誓いました。小野植正久町長は「関係者の努力で深めてきた絆。今後も手を取り合いたい」とあいさつ。宜野座村の當眞淳村長は「幅広い分野で交流を深めたい。内子の伝統の素晴らしさを、宜野座の子どもたちにも体験してほしい」と思いを語りました。

1_交流促進の宣言書を手にする４人。左から久保美博内子町議会議長、当真嗣信宜野座村議会議長、小野植町長、當眞村長　2_両町村の関係者が50年の節目を祝った　3_甕に入れて熟成させた泡盛は今後の交流会で酌み交わす　4_一行を歓迎する記念の大凧

飲んで歌って、異国文化を味わおう ドイツ気分を満喫する一日

4年ぶりとなる「ドイツフェスタ2023」（同実行委員会主催）が5月13日、内子自治センターで開かれました。

この催しは内子町とドイツ・ローテンブルク市との姉妹都市交流を記念して平成25年に始まりました。本場のドイツのビールや、伝統の肉料理「アイスバイン」、焼きアーモンド「ゲブランテ・マンデルン」などが販売されたほか、民族衣装のファッションショーや陽気な音楽の演奏もあり、ドイツ気分に包まれた会場を盛り上げました。

松山市から参加した寺田直子さんは「久しぶりの開催を楽しみにしていた。友人と一緒に盛り上がれたし、料理もおいしくて大満足」と祭典を満喫していました。

1_ドイツ語で乾杯を意味する「プロースト」の掛け声が響く　2_大人気商品のソーセージ　3_民族衣装「ディアンドル」姿をステージで披露

事故ゼロの願いを込めて―― 高校生らが交通安全の呼びかけ

春の全国交通安全運動の一環で「人の輪作戦・合同茶屋」が5月17日、内子交番前で開かれました。

内子交通安全協会や大洲警察署、関係団体などから約40人が参加。内子高校からも交通委員の3年生4人が初めて運動に加わりました。国道56号沿いに「交通安全」の黄色い幟旗を掲げて注意を促し、啓発チラシなどを運転手に手渡して安全運転を呼びかけました。同校で交通委員長を務める曽根佑昭さんは「これからも内子の死亡事故ゼロが続いてほしい」と真剣な表情でした。

運動に初参加した内子高校生と、呼びかけに笑顔で応える運転手

子どもたちの元気が内子町の元気 一日限りの手作り遊園地

「内子町子どもフェスティバル」（同実行委員会主催）が5月20日、内子運動公園総合グラウンドで開かれました。

消防署や自衛隊など町内外の53団体の協力で、パトカーや消防車の乗車体験、ウサギやヒヨコと触れ合える移動動物園など多くのコーナーが用意されました。大人気のお化け屋敷や地震体験車の前には長い列ができるなど、約1600人の親子連れでにぎわいました。

子どもたちは「お祭りみたい」「何度来ても楽しい」と、笑顔で元気いっぱいに楽しんでいました。

迫力満点の白バイに「格好いい」と目を輝かせる子どもたち